

鈴鹿市農業再生協議会（三重県鈴鹿市）

組織の概要

- 鈴鹿市、鈴鹿市農業委員会、JA鈴鹿、JA受託部会、土地改良区、農業共済等が構成員となり、H24年に設立。
- 管内の全耕地面積は3,974ha、構成農家3,494戸（R7年）
- 各構成員の連携のもと、戦略作物の生産振興、農地の利用集積等に取り組む。市内の平坦地（灰色低地土：水田適地）を中心に水田作が盛ん。



< 担い手向け研修会 >

生産概要

- 【作付面積】水稲：23.3ha（うち飼料用米5.1ha）、小麦：2.1ha（R6年）
- 急速な農地集積の中で、生産性の高い水田経営を維持するために、水稲単作から団地化を前提とした稲、麦の輪作体系に作型を拡大。また、播種機を有効活用し、新たに水稲直播栽培にも取り組み。
- 麦作への展開は、新たな機械投資を最小限に抑えつつ、作業分散できる点で、担い手の経営に寄与。

取組のポイント

<需要に応じた小麦を生産>

- 県内の実需者と連携して、食感に特徴があるため加工業者からの引き合いが強く、伊勢うどんにも適した日本麦用品種（低アミロース軟質小麦）「あやひかり」を作付け。

<地域に合った効果的・効率的な技術で高い生産性を実現>

- 海岸に近く地下水位が高い地域性を考慮し、耕うん同時畝立て播種を導入することで、良好な排水性と適切な播種深度による高品質な小麦を生産。
- 小麦生産に不可欠な赤かび病の防除、高品質生産に必要な追肥・除草剤散布にドローンを活用。これらを適期に短時間で実施できるため、天候の影響を最小限に抑えている。
- 地域全体では、土質等の経営環境に応じて、2年3作（稲、麦、大豆）、1年2作（麦、新規需要米）といった多様な作型も見られる。



< 麦の団地化ほ場 >



< ドローン追肥作業 >

取組成果

<麦の作付面積を計画的に拡大>

- 拡大する経営農地を有効活用するために、計画的に麦の作付面積を拡大。

作付面積：2.17ha（R6） → 2.50ha（R7）

目標 2.29ha（R10）

R7実績：前年比15%拡大、4か年計画の目標水準到達

<生産性向上による単収の向上>

- 団地化、適期作業、効果的・効率的な技術の活用により、単収が向上し、かつ、県平均を上回る。

単収：350kg/10a（R6） → 357kg/10a（R7）

県平均 346kg/10a

R7実績：前年比2%向上

